

新たな総合計画の策定方針

I 計画の概要

1 計画策定の趣旨

- ・ 現行の「新未来『創造』とくしま行動計画」が平成30年度で終了するため、本県の目指すべき将来像やその実現に向けた今後4年間の施策を示す新たな総合計画を策定

2 計画の構成内容

次の3層構造により構成

- 【長期ビジョン】2060年頃の目指すべき将来像
- 【中期プラン】2030年頃に実現を目指す戦略
- 【行動計画】4年間に取り組む重点施策

策定のポイント

- ◆ 将来を担う若者が描く“徳島の未来像”や“柔軟な意見・発想”を大胆に反映
- ◆ 国の提唱する未来社会「Society5.0」や「インダストリー4.0」などのテクノロジーの進展による未来像の取り入れ
- ◆ EBPM（データに基づく政策立案）の視点を重視
- ◆ 日本創生を俯瞰した「徳島ならではの地方創生」の更なる進化

II 策定手法

1 県民意見の反映

- ・ 徳島の未来の姿を共有し、ともに希望あふれる徳島を創るため、特に将来を担う若者の意見を積極的に聴取

聴取のポイント

- ◆ 若者クリエイティブ部会メンバーや若手有識者、移住者、県・市町村職員、地域の若者で構成する新たな「タスクフォース」を発足
- ◆ 各圏域で“フューチャーセッション”を開催し、意見・アイデアを集約
- ◆ 若者の意見を広く聴取するため、庁内外の若者向け行事との連携推進

2 大学との協働

- ・ 徳島県の現状や課題の把握、将来像等の検討に際しては、専門的知見が必要であるため、包括協定等を締結する大学の協力を得る。
- ・ 若者の意見聴取にあたっては協力いただく。

3 総合計画審議会

- ・ 計画についての意見や提言を求め、その意見や提言を反映し策定
- ・ 特に、新未来創造部会は審議の中心を担っていただき、若者クリエイティブ部会は、タスクフォース等で聴取した若者意見の集約などを担当

4 庁内の策定体制

- ・ EBPMの視点による「分かりやすいKPI（目標）」の設定や「徳島ならではの地方創生」の更なる進化を図るため、政策創造部内にPT設置